

現状の課題と課題解決のための手立て

話すことが苦手！

- 1 聞き合い、伝え合う力の育成する
- 2 日本語と英語の発音の違いに気付くことや、コミュニケーションの楽しさを体験する
- 3 「話したい!」「聞きたい!」と思わせる活動を設定することで、相手を意識したコミュニケーションが活性化する

具体の取組の内容

- ①児童へのアンケート調査を実施する。
- ②大家小英語教育活動のグランドデザイン作成する。
- ③指導者を招聘し、研究授業を通して、課題を明確にしながら研究を推進する。
- ④ALTとの連携を大切に、外国語主任(中央研修生)を中心に指導案を作成していく。
- ⑤英語活動を振り返るチェックポイントを活用し、教師が互いにチェックしながら次の授業に生かせるよう工夫・改善していく。
- ⑥中学校との連携を深めていく。(小・中の教育課程の連携、互いの授業公開等)



《英語活動を振り返る check point !》

- 全員がコミュニケーションを取れているか
 <教師や特定の子供が話すのではなく、全ての子供が情報や気持ちを伝え合い、聞き合っているか>
- 友達とのかかわりは生まれているか
 <互いに理解を深め、新しい関係が生まれていくような活動になっているか>
- 全人教育としての学びになっているか
 <英語の表現だけに目が向き、相手を思いやったり、気持ちを込めたりすることを大切にしているか。教育に不適切な題材を選んでいるか>
- 自己表現の工夫はあるか
 <「伝えたい」という気持ちを持てるよう、自分についての話題を入れられ、目的のある活動になっているか>

《3つの段階の「きく活動」を大切にする》

- ◇ 聞<(hear)>…音や声を耳で感じ取り、大まかな情報を得ること。
- ◇ 聴<(listen)>…注意深く話に耳を傾け、内容を理解しようとする。
- ◇ 訊<(ask)>…疑問に思ったことをはっきりとさせたいから訊く。
 自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け止めたりする。



成果①

①4, 5, 6年生に英語アンケート実施

- 英語に興味・関心がある…80%
 - 英語のコミュニケーションが楽しい…68%
 - 英語の授業が楽しみ…80%
- * 高学年になるにしたがって、英語に対する苦手意識が高まり、興味、関心が低くなっていた。

②英語指導力向上研修後

- 英語に興味・関心がある…90～92%
 - 英語のコミュニケーションが楽しい…80%
 - 英語の授業が楽しみ…90～92%
- * 本校の実態として、「聞くこと」「書くこと」は比較的好きだが、「話すこと」に苦手意識が強い。
 → 研修を進め、実践を重ねていくと児童に変化が出てくる。

成果②

①教員・管理職から見た児童の変容

- 色、曜日、外国の名前、代表的な食べ物等を覚えて、簡単な会話ができる。
- ALTや教師の英語の指示が理解できる。
- 友達とのコミュニケーションを英語を使って楽しみながら会話ができるようになってきた。
- 指導者の適切なアドバイスと中央研修生のリードにより、苦手意識を払拭して児童も教員も楽しめる実践となった。

②保護者から見た児童の変容

- 保護者が受けてきた英語授業との違いに驚き、小学校の英語教育への理解が深まった。

③指導主事から見た研修協力校の変容

- 中学校に見せたい実践となった。取り残されていると感じる児童生徒がいないように、事前に手立てを用意することが大切である。

今後の課題・方向性

- ①質問の仕方や発音、ジェスチャーなどを十分に練習してから発表すること、即実演(デモ)発表に関しては、どちらもメリット・デメリットがある。
 <練習を十分にしてから身に付く力>
 →「話すこと(発表)」の正確性を養える。
 <即実演(デモ)発表で身に付く力>
 →「話すこと(発表)」及び「話すこと(やりとり)」の即興性を養う。
 ⇒身に付けさせたい力(ゴール)に合わせて活動を選ぶ。
- ②身に付けさせたい力(ゴール)は、本時のねらい・単元目標・大家小を卒業する時に求める理想的な児童像と授業内容に整合性があるかを確認する必要がある。
- ③今後の課題として、発話している児童の割合が低い活動の時に、教員の支援によって「取り残されている」と感じている児童がいないように工夫・改善していく。